

こだま通信

77号



【編集】 特定非営利活動法人こだま

〒690-0048 松江市西嫁島1-1-19

☎&FAX 0852-28-8162

事業所ごとの特徴をだして

街の中にいろいろな事業所が増えれば、利用する人たちに自由に選んでもらえる、そんな夢のような思いを持って、2003年、支援費制度が始まる年に事業を始めたNPOこだまです。あれから18年が経ちました。生活介護と就労Bの事業所を、利用者の状況にあわせて、市内のテナントや貸し事務所を借りて6箇所で開催してきました。

そして今年は、その中から若い職員を中心に2箇所の生活介護の事業所が、新しい法人を設立して独立していきました。既存の形にとらわれず、みんなの若い発想力で特徴のある事業所に育ってほしいと思っています。

こんなところで働きたかった

2年前からこだまでは、就労継続支援B型のサテライト施設として市内の忌部の千本ダムの畔で、小さなカフェを開きました。当初はどうなるかな、と心配しながらの開店でしたが、今では常連のお客さんもあって、毎日20食のランチが完売するほどになっています。利用者の方も少しずつ増えていますが、みなさんそれぞれに困りごとを抱えています。しかし、ゆったりとした時間とスタッフと利用者の方とお客さんで作る不思議な素敵な空間にふれて、次第に自分の本来持っているものを出せるようになってきています。

先日も支援学校からの実習生が、実習2日目に「卒業したら、就職させてください、働かせてください」「こんなところで働きたいです」と猛アピールをしてこられました。よほど気に入ってくれたようです。事業者としてはとても嬉しいことです。希望してくれる利用者の思いに応えるためにも、あたらしい事業形態が求められているように感じています。

事業者の視点

これまで就労系の事業というとな下請けの仕事が多かったり、事業所の横にプレハブの作業場を用意したりすることが通例でした。利用者の方が安全に作業ができる場所を確保することが優先されていました。ところが近年は、街の中にレストランを開いたり雑貨店やカフェをオープンさせる事業所も多くなってきています。

NPOこだまも、そんな時の流れにのってカフェをオープンしたり、利用者が増えて手狭になった作業場を移転するにあたって、便利な駅前のテナントを改装して、クッキー販売のお店にした新しい作業場を作りました。開店すると近所の方が、「どんなお店ができるのか楽しみでした～」と来店され、クッキーとプリンを購入してくださいました。それ以来毎週のようにのぞいてくれる常連さんになっています。利用者の方も自分たちが作ったクッキーやプリンが売れていくのを作業場からガラス越しに見ることができ、一層やる気が出るようです。

最近は障がいも多様化して、いろいろな方が生活介護や就労系の事業所を利用するようになっています。これまでのように大人数で下請けの作業を一斉にしていくような作業では満足できない方達もいます。ときには職員と一緒に振り返りをして、気持ちを新たに作業に取り組んでいくことが必要な利用者の方達もいます。

これからの事業所には、そんな一人ひとりにきちんと向き合い、利用者の強みを活かしてのびのびと働ける場所作りが必要になってきているように思います。

【山田 久】

特集

こだま版GO・TO企画 11月23日

島根再発見！ということで県内に限り小旅行にでかけました。3密を避けるために4つのグループに分かれてのお出かけでした。新型コロナウイルスの影響で活動や普段の生活でもたくさんの制約がありました。そんな中でも皆さんに新しい経験をしていただきたいと行事部で話し合っって今回の計画を実施しました。

今年は新型コロナの影響で、いつもお出かけが中心のこだまの生活介護ですが、どこにも行けなかったね！と残念そうな声が聞こえてきます。そこで、行事部ではコロナが落ち着いている秋に、思い切ってみなで遠出をしようと計画を練り始めました。みなで行くのは、密になるので4つのコースに別れて出かけることにしました。

早速、コースを決めて希望を聞くと「今まで行ったことがないので、当日は美保関方面でお願いします！」と次々に行き先についてのリクエストがありました。もちろん他のコースにも希望が出ています。今回は、コースが分かれることで車が足りなくなるということで観光バスを借りることにしました。ちょうどGOTOトラベルで通常の半額以下で借りることができました。車イス6台乗車可能なタイプの観光バスです。奥出雲コースの皆さんからは「窓も大きくてよく見えて嬉しいわー。快適だわー。」と出発時から嬉しいコメントをいただきました。松江の観光バス業者さんにも、こんなバスが導入されていることを知りビックリしました。今後も、機会を見つけて利用したいと話しています。

島根半島チームは当初、米子～鳥取方面の映え映え（ばえばえ）の旅になる予定でしたが、直前に鳥取県で新型コロナウイルスの陽性者が出たとの情報が入り、急きょ行き先を変更して平田の木綿街道と大社島根半島の旅になりました。 【野津 拓馬】



秋の奥出雲コース

私は奥出雲秋満喫コースを企画、担当しました。奥出雲町は島根県の南に位置する歴史のある町です。5名の利用者さんと4人の職員と一緒に大型バスを貸し切った移動となりました。バスにリフトがあらかじめついていて普段の送迎車とは違い、高い位置から目的地までの紅葉を存分に楽しむことができました。おろちループでは隣接してある



美術館の一室を貸し切って食事をしました。奥出雲のマイタケをたくさんつかったお弁当でとてもおいしかったです。少し移動しながら紅葉も一望でき、秋を沢山感じることが出来ました。また三成にある森田醤油さんにもお邪魔して醤油に対するこだわりやできるまでの工程をみんなで味見をしながら丁寧に説明していただきました。蔵にある大きな醤油樽も見せていただき醤油のいい香りがしていました。お土産に購入して持ち帰った醤油の味はいかがだったでしょうか？

当日は短い時間でしたがたくさんの方々に協力していただきました。バスの運転手さんや介助員さんも丁寧に車いすの乗り降りを行っていただきました。また観光協会の方々には昼食の準備や場所の提供、短い時間でもしっかりとみなさんに商品の魅力が伝えられるよう、森田醤油さんともたくさん打ち合わせをしていただきました。この旅を通してみなさんに新しい経験をしていただきたいという思いが私や職員だけでなく、この旅に関わってくださった方々にも伝わって楽しい時間になったと思います。また楽しい旅行を企画できればいいなと思います。 【永井 智】

当日は短い時間でしたがたくさんの方々に協力していただきました。バスの運転手さんや介助員さんも丁寧に車いすの乗り降りを行っていただきました。また観光協会の方々には昼食の準備や場所の提供、短い時間でもしっかりとみなさんに商品の魅力が伝えられるよう、森田醤油さんともたくさん打ち合わせをしていただきました。この旅を通してみなさんに新しい経験をしていただきたいという思いが私や職員だけでなく、この旅に関わってくださった方々にも伝わって楽しい時間になったと思います。また楽しい旅行を企画できればいいなと思います。 【永井 智】

大根島・美保関コース



私たちのグループは大根島の由志園、美保関の美保神社、灯台へ出かけました。紅葉、神社、海に行き季節を感じました。当日は肌寒く雨がぱらつく少し残念

な天気でした。しかし最初の目的地の由志園では雨に濡れた紅葉がとてもきれいでした。色づいた葉がさらに赤く見えてとても鮮やかでした。初めて行くという利用者さんもとても楽しかったようです。

午後からは美保関の美保神社へ向かいました。意外に観光客がいて驚きました。大きな観光バスも来ていました。ほとんどの利用者が初めてだったようですし、同行した職員も滅多に行かない所のようにとても新鮮でした。中でも青石畳通りは風情があって歴史を感じるとても良い場所でした。町並みの散策がとても良かったです。ここの石畳は雨に群れた方がきれいなんです。

(美保関では雨が降っていませんでした。)最後に美保関灯台へ行って帰りました。

毎日の活動ではなかなか行くことが出来ない場所へ行くことができ、普段は見れない表情や行動が見れた1日でした。今回は遠足らしく旅のしおりに作ってみました。ここに行ったという思い出が少しでも残っていたら良いなと思います。ほとんどのことが予定通りに進みほっとしたGOTO こだまでしたが楽しただけで終わってはいけません。もっと美味しいものを食べたかったとか、もっと若者らしいところに行きたかったとか、振り返り活かすことが大切です。次回があるとすればさらに良いGOTOこだまに期待してください。その時は誰もがマスクをせず、どこでもいけるそんな時が来ているといいですね。 【奈良井 謙】

大社・島根半島コース

私たちのGOTO遠足のは大社・島根半島に向けて出発しました。最初は木綿街道を散策しました。醤油アイスが売っていました。道端のプランターには木綿が植えてあり可愛かったです。利用者みなさんは木綿街道の交流会館でトイレ休憩をしているときに紅葉を楽しんだり、木綿に触ってみたりしておられました。

少し散策してからは文吉たまきといううどん屋さ

んで昼食をとりました。うどんの創作料理がありました。普通のだまきよりオシャレで、店内も天井が拭き抜けになっていたり、照明や家具もすごくおしゃれだったり普段私たちが行くたまきとは真逆な洋風の建物でした。近くにはカフェもありました。二階でもご飯が食べられるようになっていて、椅子ではなく座布団に座ってランチやお茶が楽しめるようでした。料理が運ばれて来るまで店内の様子を観察しておられる方や、職員と会話を楽しんでおられる方、じっと料理を待っておられる方など様々でした。料理が運ばれてからは皆さんすごくおいしそうに食べておられました。

昼食に時間を取ってしまい、大社には行かず平田から一六島を回って帰ろう！と出発しましたが、途中が通行止め！他の道を迂回して海を目指してドライブをしました。山の紅葉と日本海を



1度に見ることが出来てとても綺麗でした。またコロナが落ち着いたら今回行けなかったスポットへ皆さんと出かけてたくさ

ん楽しい思い出を作りたいです。 【村上 凜香】

三瓶山コース

クッキー工房の利用者の方は、三瓶山に行きました。クッキー工房の全員と一緒に出かけするのは初めてのことであり、どんなになるかなと少し興味を覚えながらの出発でした。

車中ではCDを聞いたり、道中の山々の紅葉や、道の駅での休憩などそれぞれに楽しんでおられてよかったです。三瓶山に着いてからは、早速お弁当を開きいただきました。西の原から、紅葉した三瓶の山を眺めながらのお弁当は格別でした。お弁当が終わった後は、個性豊かなクッキー工房の利用者のみなさんですので、それぞれに散策を楽しまれたり、職員と話をして楽しみました。秋の休日の一日をみんなで出かけたことで、翌日からの作業の場面でも、話し合いができたたり、協力しながら作業が出来たりと、とても収穫のあったクッキー工房のGOTOの旅でした。

研修報告

相談支援従事者研修・サビ管研修

8月から11月にかけて相談支援従事者初任者研修（前期）とサービス管理責任者基礎研修の研修を受けてきました。サビ管の研修ではグループで実際に個別支援計画を立てるという実習をしました。利用者の願いは何か、より具体的に、実現しやすい内容か、評価ができているのかなどなど気をつけなければいけないことがたくさんあることを学びました。グループメンバーの意見交換はとても勉強になりました。意見もそれぞれ、思う支援の仕方もそれぞれ。より良い個別支援計画を立てていくために一人一人の意見を聞くことは大切なことだと思いました。

研修で常に言われること、それは利用者主体ということです。当たり前のことですが人生の主人公は利用者本人です。私たちは利用者が人生を走っていくのをサポートをする伴走者なのではないかと思えます。より良い生き方、暮らし方のお手伝いをするの伴走が私たちの専門性です。そのより良い生き方、暮らし方をするための支援を形にしたものが個別支援計画です。そのような研修を受けられたことがとても良かったです。誰でも一人では出来ること、考えることは限界があると思いますが、こだまチームとして支援を考えていければと思います。最後にチーム支援のために必要なことを載せておきます。



- ①共通する目標を持つこと
- ②自他の能力と限界を知っていること
- ③相手とコミュニケーションがとれること
- ④意見交換をする場が設けられていること
- ⑤自らも変容することを受け入れること

【奈良井譲】

強度行動障害支援者養成研修

9月に開催された強度行動障害支援者養成研修に2日間、参加させて頂きました。こだまからは3人が参加しました。強度行動障害とは、本人の健康を損ねる行動や周囲の暮らしに影響を及ぼす行動が高い頻度で起こり、特別に配慮された支援が必要になっている状態のことです。こだまでも何人かおられ、その利用者さんを思い浮かべながら研修を受けました。

研修の内容は、どんな障害であるのか？なぜ表れるのか？予防することの重要さや改善するための考え方や方法を学ぶ、というものでした。最終的な支援の目標は、強度行動障害が表れている方が地域社会で安心して生活することです。これはこだまの理念である『街のなかで生き生きと』と一緒に感じであると思いました。

以前こだまで、他事業所での通所が難しくなり、家から出られない方の支援に入ったことがありました。一対一で、別室で支援をしていましたが、今では毎日通所されみんなと一緒に作業をしたり、外出に行ったりしています。生活にリズムができて、安心できる場所だと思われたからだと、実際に支援に入った職員の話をお聞きしました。



私自身も利用者さんに『なんか居心地いいなー。』と思ってもらえるような環境を提供していきたいと思いました。また強度行動障害の方は、自分の困っている思いを伝える手段として自傷や他害などの行動をしてしまいます。強度行動障害の方だけでなく、利用者さんの中には自分の思いを伝えることが難しい方もおられます。そういった方の思いを本人の立場となり、考え続けていきたいと思った研修でした。

【余村麻由子】

発達障がい就労支援事業者スキルアップセミナー

東部発達障がい者支援センターウィッシュ主催の「発達障がい就労支援事業者スキルアップセミナー」に参加してきました。こだまからは3名の参加でしたが、もっとたくさんの職員に聞かせてあげたい思いになりました。講師の方は、オンラインで東京の自宅からの参加のようでしたが、話の内容がとても興味深く、普段の講演会よりもより一層深く学ぶことが出来ました。

講師の方は内閣府の地域働き方改革推進会議の委員をしておられる渥美由喜氏でした。自身も発達障がいだと、自身の生き立ちや、お母さんの子育ての様子などについても話してくださり、話しの全てがうなづける内容でした。話を進めるにあたって発達障がいの方を取り扱った漫画「リエゾン」と「シュリンク」のエピソードページを紹介しながらでしたので、より納得のいくお話でした。

こだまのサービスを利用される方の中には自閉症スペクトラムや発達障がいの方がいます。こだまでは早くから自閉症スペクトラムや発達障がいに関して内部での研修を行ってきていました。渥美先生からの特性の理解や強みを生かす動きなどの話を聞くたびに、「そうそう」とうなづけることが多かったですし、同じような取り組みをしてる！と同調した部分もありました。

講演会から帰るとすぐに、渥美由喜で検索し著書を探したり、紹介されたりエゾンとシュリンクを注文しました。「リエゾン」と「シュリンク」はこだま職員の課題図書にして、それぞれのグループで回して読んでもらっています。



内部研修 石橋ウィッシュセンター長をむかえて

みなさんはこれまでの人生で“生きにくさ”を感じたことがありますでしょうか？また、それぞれ生きにくさを感じた時にどのように受け止めて乗り越えたのでしょうか？そんな誰もが感じたことのある悩みや苦しさにもつながる大人の発達障害について研修会を行いました。島根東部発達障害者支援センターからセンター長である石橋先生をお招きして、成人の発達障害に関する症状や本人の自己理解や支援の方法まで時間いっぱいお話していただきました。

私は初めて発達障害という言葉を知ったとき、はっきりと障がいの程度や種類を想像できませんでした。その人自身の心の問題や取り巻く環境によっても症状は大きく異なるということを知った際には支援の方法も高度な専門的な知識を必要とするのだと感じていました。先生は実際に全国で報告されている症状を一例ずつ説明しながらそこからわかる共通の特性や“ADHD”や“アスペルガー”と言った専門用語についても詳しく教えていただきました。なじみのある芸能人の名前をあげて特性を説明していただくなど研修の内容がよりわかりやすく身近な事に感じられました。発達障害には周りの環境との相性が悪かった場合の問題が大きく認識されやすいですが、その人の持っている他人にはまねのできない得意なこと、こだわり、周りから認められている長所があることなども“特性”として表れていることがほとんどです。



私たち支援者は本人が抱えている“生きにくさ”について一緒に支援の方法を考えながらその人なりの社会との関わりを大事にしていくことがとても大切です。しかし、本人のこだわりや得意なこと、好きな事に着目して活躍できる場所を提供し、社会の中に作り上げていくことが本人の人生の豊かさだけでなく社会全体の発展につながるという事も研修の中で教えていただきました。

【永井 智】

生活介護こだま

先月、焙煎機を購入しましたとお知らせしました。その焙煎機を使って生活3では新たに珈琲作業が始まりました。

焙煎機で豆を焙煎するところから始まるのですが、焙煎中はとても良い香りで珈琲屋さんの前を通ると漂ってくるあの香りが生活3の部屋中を包んでくれます。リラックス効果もあるのか皆さんこの香りをかぐと体の力がすーっと抜けて心も体も解放されるような感覚になるから不思議です。

焙煎が終わると今度はミルで豆を挽いていきます。焙煎とはちがった良い香りの中で作業です。これはボタン1つのできるので生活3のメンバーにもびったりです。

そして挽いた豆を今度はドリップパックに詰めていきます。これは専用のスプーンを使って10グラムずつ入れていきます。計量が得意なメンバーがどんどん入れてくれます。

そして珈琲を入れたパックをシーラーし、パックの口を閉じていきます。こちらは車いすの方が中心になっています。出来ました！の合図のピッという機械音が皆さん大好きでその音を聞くとニヤリと笑っています。そして外袋にシールを貼る等の工程を経てKODAMA珈琲の完成です。

シールになっているイラストは生活介護の利用者さんが描いてくれました。このように皆で力を合わせて作っている珈琲です。コロンビア豆が皆さんに好評で一度注文された方がリピーターになってくださっています。私たちも自信をもって販売していますので是非飲んでみてくださいね。【森山 祐子】



ほんそご

ほんそごは、朝から笑い声が絶えません。面白いことが毎日起きています。笑うことは免疫力アップ！コロナウイルス対策にも良いですね。

でも、笑ってばかりではありません。支援で悩むことも沢山あります。ほんそごの利用者さんの中には、自分の欲求を言葉で訴えることのできない方もあります。何を望まれているかわからず支援に行き詰まり困ることもあります。こんなことがありました。

最近食事の入らない利用者さんがありました。最近の状況について話し合い、いろいろな方向から考えてみました。話し合いの結果、食事の場面だけを考えるのではなく生活全般から考えることにしました。最近の支援の状況はどうだろう？好きなことはできているか？リラックスできているか？もう一度見直して、それを増やしていくことにしました。するとだんだん食事が入るようになりました。支援に困った時は、その人のことを考えるチャンスですね。

ほんそごでは、みんなで話し合い実践しフィードバックしていきます。利用者さんは私たちの先生です。支援がその人にふさわしくないものであれば考え直すチャンスを与えます。

ほんそごがたくさんの笑顔と笑い声で溢れるように、これからも、ゆっくりと丁寧に関わっていきます。【伊藤 和枝】



クッキー工房

今年のボジョレーの日には、こだまからクッキー工房のプリンとクッキーをお届けさせていただきました。いかがでしたでしょうか。プリンとクッキーそれぞれ2個ずつの100セットの製造となりました。いつもの製造もあるので、この時ばかりは大忙しでした。特にプリン作りは、消費期限のこともあるので、どう製造していこうかとあれこれ計画を考えました。

ところがそんな心配はいらなかったようで「ぷりんできました」と自信満々に報告してくれました。1日に作る数がいつもより多くても、普段やっていることがここぞという時に力を発揮したようです。クッキー製造も「わーこんなに」と初めは不安そうな声もありましたが、「頑張りました」「やったね」といくつかのケースいっぱいに出上がったクッキーを見て、達成感をあじわいました。

ボジョレーの日みなさんのお宅へお届けできた翌日には、次の注文のクッキーやプリンの製造も行いました。ありがたいことに注文の多かった11月は、忙しかったですが一人ひとりのがんばりで乗り越えました。みなさんがいてこそこのクッキー工房だと実感しました。

【池田 里美】

カフェこだま

秋の訪れとともに、カフェこだまを利用して下さる方が多くなってきました。密になるのを避けるために、椅子の間隔をひろげたり、アクリル板の衝立を用意したりと、お店の中は少し違った配置になったのですが、気がつけば昨年どうりの売り上げになっています。毎日来てくださる常連の方、ご夫婦で楽しそうに来てくださる方、仲良しグループで楽しんでおられる方など様々です。

10月からの実習を経て11月から勤務することになった新たな利用者も加わって、毎日1～2名の利用者が接客にあたるようになってきました。接客している姿を見ると本当に力がついて来ているな、と思うこともしばしばです。

カフェこだまのような場所が、地域の方に求められ憩いの場になっています。そして何よりも、利用者が楽しそうに働きながら、力をつけて来ています。「いつかはひとり暮らしがしたい、一般就労を目指す」と夢を語れるようになってきました。本当に楽しみです。

また10月5日から、1日20食ということで始まったカフェこだまの弁当製造ですが、生活介護の方達の協力で毎日25食で推移しています。始まったばかりで、役割分担もまだまだですが、盛り付けやメニュー貼りなど、手分けしながら狭い厨房を行き来しています。カフェの弁当の売りは、地域の食材を使っていることです。カフェの野菜市に出る朝どれの新鮮な野菜はもちろん、大東町の野菜市の野菜も使っています。どうかカフェのお弁当をこれからもよろしくお願いします。

ホームヘルプ

今年に入って、特にヘルプサービスでご要望が多いサービスは、自宅での入浴介助です。

「毎日、ゆっくりとお風呂に入りたい」という本人の希望と「毎日、自分のお家のお風呂で、ゆっくりとお風呂につかってほしい。」という家族の願いも重なり、こだまのヘルパーへの要望へと繋がっています。もちろん、私たち職員は、できるだけそのご要望を大切に受け入れ、できる限り調整し、サービスを提供しています。

その入浴介助に入って毎回思うのですが、「こんなに喜んでいただいて、私たちこそ、活かされているな……。本当にありがたいです。」と心から感謝の気持ちが芽生えます。

サービス提供する中で、利用者の方やそのご家族の方との何気ない会話や、やり取りの中で気づかされる大切な事は、私たちヘルパーにとって、かけがえのない財産となり力となります。

今後も一つでも多くの利用者の方や家族の願いや希望を感謝しながら受け止めて、丁寧に叶えていこうと思います。

【渡部 健史】

大西看護師の健康講座

大人はなぜ時間が早く過ぎる？



いろいろとあったこの一年。その今年もいよいよ終わりに近づいてきましたが、お元気でお過ごしでしょうか？こだまでも、この寒空の中換気にいそしみ、時には鳥肌をたてながら活動をしています。ご協力ありがとうございます。来年の事を言えば鬼が笑うと申しますが、「もう少し穏やかな時が過ごせませうように」と願わずにはいられませんね。今年は特に「あっという間」に過ぎたと感じられる方が多いのではないのでしょうか？そこにはキーワードがいくつかあるようなのでご紹介します。

ヒトには心的時計といえるものがあり、これが実際の時計より速く進めば、「まだ1時間」と感じますし、逆に心的時間が遅く進めば「もう1時間過ぎた」となります。

千葉大学文学部の一川誠・准教授によると、心的時計の進み具合には、身体の代謝が影響しているそうです。“代謝が活発であれば、心的時計が速く進み、不活発であれば進みは遅くなる。”一般的に大人になれば代謝は低下しますから、そこで心的時計の進み方がにぶり、時間の経過を速く感じるのだそうで、子供にはさまざまな行事が多いのに対して、大人になると慣れ親しんだ出来事が多くなるため、時間経過に注意を向ける回数が減り、その分時間の流れが速く感じるのだといいます。（ちなみに…午前中の時間のほうが速く過ぎると感じるのは、目覚めから時間がたっておらず代謝が低いからだそうですよ。）

今年1年、自粛生活で1日や1週間のメリハリが少なく、充足感が足りないこともあったでしょう。さらに自宅で過ごすことが多くなることで運動量が減り、代謝も低くなった方も多いでしょう。これらいくつかの要素が重なり、今年は特に速く過ぎたと感じられたのではないのでしょうか。

今年一年「あっという間」に感じるのは、大変な中でも踏ん張ったからだ！充実していたからだ！と思っていた私にはやや衝撃な内容ではありましたが、たとえ単純繰り返しの日常でも丁寧に丁寧に積み上げた結果「今」があるのですから、「あっという間」に感じられるということは、みなさん今年も頑張ったといえるのではないのでしょうか？自分をほめてあげましょう！

今年一年、本当におつかれさまでした。

【大西 知子】

職員リレーブログより

先週末、県立美術館で障がい者アート作品展が開催されました。こだまからは14名の方が参加され、うち2名が賞をとられました。開催前日、主催者から入選の連絡を受け、ご本人に伝えた時の表情が忘れられません。一瞬何が起こったのか…職員が騒ぎ出して驚いてる様子の彼女。次第に話題が自分に向いていることに気づかれたようで、恥ずかしくも嬉しそうな表情を浮かべておられました。作品展までの期間、それぞれが得意な事や好きな事、したい事に目を向け、製作を進めて来ました。たくさん勉強させてもらう事があった期間でしたが、とにかく一緒にやってみて失敗したり成功したりして、その人らしく取り組めたり、そこに心が向かっているところを間近で見せてもらえた事がなによりの答えかなあと、今ふとそんな風に思いました。